

（１）大学・学科の設置理念

①大学

本学は、キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。

グローバル教養学部は、本学の教育理念「For Others」のもと、複雑化・多様化する国際社会において、自立した市民として時代や環境の変化に対処するための力、すなわちグローバルな教養を身に付け、異なる文化や価値観をもつ人々と共生・協働し、国際社会の発展とイノベーションの推進に主体的に貢献できる創造的な人材を養成する。

グローバル化する社会において、自立した市民として自らのキャリアを描き、実現するために、多様な言語の運用能力とコミュニケーションスキルを修得すると共に、異なる文化や価値観を理解し、尊重した上で共生・協働する力、多様なメディアや言語を通じて自らの考えを的確に表現するための情報発信力を身に付け、複雑化・多様化する国際社会の諸問題にグローバルな視点を持って主体的に関わり、解決する能力を修得する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

<国際社会学科>

国際社会学科は、複雑化・多様化する国際社会を多角的に理解するための学びを通じて、国際的な社会の諸課題を地球規模の視点で捉え、身近な社会とのつながりにも着目して主体的に行動する力を身に付け、幅広い教養と多文化共生の視点をもって、国際社会の発展とイノベーションの推進に貢献できる創造的な人材を養成する。

複雑化・多様化する国際社会における政治・経済・法律・歴史・思想を多角的にとらえ、その発展に貢献するために、多様な言語の運用能力とコミュニケーションスキル及び国際関係や国内外の社会・経済に関する専門的知識を身に付け、国際社会の諸問題に主体的に関わり、解決する能力を修得する。

卒業後の進路としては、一般企業の海外部門、国際機関、商社、マーケティング会社、金融業、観光・旅行業、コンサルティング業、公務員、中学校教員（社会）、高等学校教員（地歴・公民）が想定される。

<文化表現学科>

文化表現学科は、ヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本を対象とし、多様な価値観が共存する国際社会における文化表現に関する総合的な学びを通じて、グローバルな視点から文化表現の専門的知識と思考力・判断力・表現力を身に付け、幅広い教養と多文化共生の視点をもって、国際社会の発展とイノベーションの推進に貢献できる創造的な人材を養成する。

ヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本における文化表現を多角的にとらえ、その発展に貢献するために、多様な言語の運用能力とコミュニケーションスキル及び芸術・言語・文学・音楽・身体各領域における表現の専門的知識を身に付け、グローバルな視点から新たな文化を主体的に創造・表現・発信する能力を修得する。

卒業後の進路としては、文化産業、マスコミ、出版社、外資系企業、公務員、観光業、公共施設職員、大使館スタッフ、演者・表現者、中学校・高等学校教員（英語・国語）が想定される。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

本学が、キリスト教精神に基づいた日本最初の近代的女子教育機関として 1870 年に開学して以来、これまでの歩みの中で大切にしてきた「For Others」という教育理念は、永い歴史の中で自然に人々の心の中で形を成し、学院のモットーとして受け継がれてきた。この教育理念「For Others」に示される、他者のために、そして他者とともにとという観点に立ち、本学教職課程では、幅広い教養と専門的な知識によって教育活動を実践することのできる教員を養成することを目的としている。

また、本学の既存学部学科においては、中学校・高等学校の教員養成に長い伝統があり、それを継承する形で、豊かな人間性の醸成を重視したきめ細かいカリキュラムを用意し、教育現場における諸問題にも的確に対応できる教員の養成をめざしている。

4年間の履修計画は以下のとおり。

【1年次・2年次】語学科目、教養科目（CLAコア科目）等の修得を通して幅広い基礎的な教養を身につける。さらに、教職に関わる基礎的科目の修得を通して教職の基礎的知識を習得し、各学科の専門科目やゼミ等を通して専門分野の基礎的知識を身につける。

【3年次】各学科の専門科目、および教職課程の専門科目を通して教員としての専門的知識ならびに技能を身につけるとともに、介護等体験の実施、ボランティア活動を通して教育に関わる諸問題の理解を深める。

【4年次】教育実習を通して実際の学校現場における教育経験を積み、さらに教職実践演習等の修得により、教員としての実践力を高める。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

<国際社会学科>

国際社会学科における教職課程の目的は、これからの時代を生きる中学生・高校生の教育に主体的に携わって貢献できる人材を、学科の設置理念に基づいて育成することにある。

学科専門「基礎科目」「基幹科目」「発展科目」に政治・経済・法律・歴史・思想等の科目を配置し、それらの科目を学際的に学ぶことを通して、異なる価値観をもつ他者を理解し、他者との協働・共生能力の向上を図ることで、社会・地理歴史・公民科の教員として必要とされる教養と技能を育成する。

また、演習科目およびアクティブ・ラーニング型等のインタラクティブ性の高い授業を通して、コミュニケーション能力の向上を図ることで、専門的知識と豊かな人間性を兼ね備えた指導力の高い教員を送り出すことを目的とする。

<文化表現学科>

文化表現学科における教職課程の目的は、これからの時代を生きる中学生・高校生の教育に主体的に携わって貢献できる人材を、学科の設置理念に基づいて育成することにある。

学科専門「基礎科目」「基幹科目」「発展科目」に芸術・言語・文学・音楽・身体等の科目を配置し、それらの科目を学際的に学ぶことを通して、異なる価値観をもつ他者を理解し、他者との協働・共生能力の向上を図ることで、英語科・国語科の教員として必要とされる教養と技能を育成する。

また、演習科目およびアクティブ・ラーニング型等のインタラクティブ性の高い授業を通してコミュニケーション能力の向上を図ることで、専門的知識と豊かな人間性を兼ね備えた指導力の高い教員を送り出すことを目的とする。

さらに、国際社会を多角的に理解するために、上級英語科目や英語で専門分野を学ぶ科目を専

門科目に設置し、実践的な言語運用能力の向上につなげ、より高度な言語教育ができる教員の輩出を目指す。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

＜国際社会学科 中学校教諭一種免許状（社会）＞

国際社会学科では、国際的な政治・経済の仕組み、および世界の諸地域における歴史・文化・思想を学ぶことで、グローバル社会のあり方を総合的・学際的に理解し、世界的課題の解決力を身につけ、中学校社会科教員としての資質と指導力を養成する。

学習指導要領（社会）では「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成すること」が求められており、学科の設置理念及び教員養成の目標とも合致していると言える。

＜国際社会学科 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）＞

国際社会学科では、国際的な政治・経済の仕組み、および世界の諸地域における歴史・文化・思想を学ぶことで、グローバル社会のあり方を総合的・学際的に理解し、世界的課題の解決力を身につけ、高等学校地理歴史科教員としての資質と指導力を養成する。

学習指導要領（地理歴史）では「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成すること」が求められており、学科の設置理念及び教員養成の目標とも合致していると言える。

＜国際社会学科 高等学校教諭一種免許状（公民）＞

国際社会学科では、国際的な政治・経済の仕組み、および世界の諸地域における歴史・文化・思想を学ぶことで、グローバル社会のあり方を総合的・学際的に理解し、世界的課題の解決力を身につけ、高等学校公民科教員としての資質と指導力を養成する。

学習指導要領（公民）では「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成すること」が求められており、学科の設置理念及び教員養成の目標とも合致していると言える。

＜文化表現学科 中学校教諭一種免許状（国語）＞

文化表現学科では、日本・アジア専攻での学びを中心に、過去・現在の日本語・日本文学・日本文化に関する学びを通して、調査・研究・創作・発信に関する能力を身に付け、ことばと表現に関する豊かな感性と知性を育み、歴史性・社会性・芸術性を伴う幅広い視点を兼ね備えた中学校国語科教員としての資質と指導力を養成する。

学習指導要領（国語科）では「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」が求められており、学科の設置理念及び教員養成の目標とも合致していると言える。

＜文化表現学科 高等学校教諭一種免許状（国語）＞

文化表現学科では、日本・アジア専攻での学びを中心に、過去・現在の日本語・日本文学・日

本文化に関する学びを通して、調査・研究・創作・発信に関する能力を身に付け、ことばと表現に関する豊かな感性と知性を育み、歴史性・社会性・芸術性を伴う幅広い視点を兼ね備えた高等学校国語科教員としての資質と指導力を養成する。

学習指導要領（国語科）では「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」が求められている。学科の設置理念及び教員養成の目標とも合致していると言える。

＜文化表現学科 中学校教諭一種免許状（英語）＞

文化表現学科では、ヨーロッパ・アメリカ専攻での学びを中心に、英米の言語・文学・文化などを多角的な視点で学び、また語学力を身に付け、英語による情報を収集、整理、分析できる実務能力を備えた中学校英語科教員としての資質と指導力を育成する。また、全学共通科目の「英語インテンシブ・コース」を発展させた内容の科目を設置して、より高度な英語運用能力を習得させることで質の高い教員の輩出を目指す。

学習指導要領（英語科）では「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」が求められている。学科の設置理念及び教員養成の目標とも合致していると言える。

＜文化表現学科 高等学校教諭一種免許状（英語）＞

文化表現学科では、ヨーロッパ・アメリカ専攻での学びを中心に、英米の言語・文学・文化などを多角的な視点で学び、また語学力を身に付け、英語による情報を収集、整理、分析できる実務能力を備えた中学校英語科教員としての資質と指導力を育成する。また、全学共通科目の「英語インテンシブ・コース」を発展させた内容の科目を設置して、より高度な英語運用能力を習得させることで質の高い教員の輩出を目指す。

学習指導要領（英語科）では「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」が求められている。学科の設置理念及び教員養成の目標とも合致していると言える。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教職課程委員会
目 的：	教職課程の運営に関する事項に係る諸事業を推進するため
責 任 者：	教職課程主任
構成員（役職・人数）：	委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。 (1) 教職課程主任 1名 (2) 教職に関する科目担当専任教員 1名 (3) 副学長 1名 (4) 教務部長 1名 (5) C L Aコア科目運営委員会委員長 1名 (6) 各学部教務主任 4名（グローバル教養学部、文学部、国際交流学部、音楽学部） (7) 各学科主任 8名（国際社会学科、心理コミュニケーション学科、文化表現学科、英語英米文学科、日本語日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学科、音楽芸術学科） (8) グローバル教養学部各学科教務委員 3名 (9) その他委員会が必要と認めた者 若干名
運営方法：	委員会は、委員長が招集し、本学の教職課程に関し次に掲げる事項を審議した結果を大学教務委員会及び教授会に報告するものとする。 (1) 教職課程の授業科目及び授業の時間割の編成に関する事項 (2) 教職課程の履修に関する事項 (3) 教育職員免許状取得に係る単位認定に関する事項 (4) 教育実習の指導、運営に関する事項 (5) 実習校及び介護体験受入れ校等並びに教育委員会との連絡に関する事項 (6) その他教職課程の運営に関する重要事項及び必要と認められる事項

②

組織名称：	大学教務委員会
目 的：	学部及び大学院研究科における教育に関わる全学的方針を策定し、教育の実施に当たっての諸事業を推進するため
責 任 者：	教務部長
構成員（役職・人数）：	委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。 (1) 教務部長 1名 (2) 各学部教務主任 4名（グローバル教養学部、文学部、国際交流学部、音楽学部） (3) 各研究科から選出された教員 各1名 (4) グローバル教養学部各学科教務委員 3名 (5) 教職課程委員会委員長 1名 (6) 言語センター運営委員会委員長 1名 (7) 英語教育運営委員会委員長 1名 (8) 初習外国語教育運営委員会委員長 1名

様式第7号イ

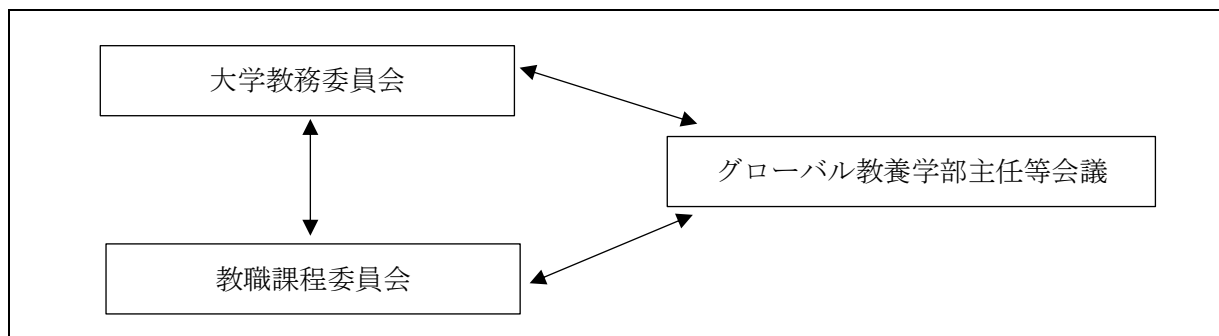
(9) C L Aコア科目運営委員会委員長 1名 (10) 留学生科目委員会委員長 1名 (11) 全学情報教育運営委員会委員長 1名 (12) 日本語教員養成講座委員会委員長 1名 (13) 教務課長 1名 (14) その他委員会が必要と認めた者 若干名
運営方法：委員会は、委員長が招集し、本学の教育の全学的方針に関し次に掲げる事項を審議した結果を学長及び大学評議会並びに大学院委員会に報告するものとする。 (1) 授業科目の編成に関する事項 (2) 授業の時間割編成に関する事項 (3) 履修に関する事項 (4) 試験及び成績に関する事項 (5) 単位認定に関する事項 (6) 学籍に関する事項 (7) 卒業に関する事項 (8) 学事日程に関する事項 (9) 授業の運営及び授業等に係る施設設備に関する事項 (10) 大学に共通して実施される教育に係る予算案に関する事項 (11) その他全学的な教務の方針に関する重要事項及び必要と認められる事項

③

組織名称：	グローバル教養学部主任等会議
目 的：	学部長を補佐し、学部運営を円滑に行うことを目的とし、カリキュラム策定及び運営を円滑に行うとともに、学科の学生状況等を把握し共有する。
責 任 者：	学部長
構成員（役職・人数）：	主任等会議は、次に掲げる者をもって構成する。 (1) 学部長 1名 (2) 各学科主任 3名（国際社会学科、心理コミュニケーション学科、文化表現学科） (3) 教務主任 1名 (4) 入試主任 1名 (5) 各学科教務委員 3名（国際社会学科、心理コミュニケーション学科、文化表現学科） (6) 各学科入試委員 3名（国際社会学科、心理コミュニケーション学科、文化表現学科） (7) 学部選出の大学評議員 2名
運営方法：	主任等会議は、必要あるときに学部長が招集し、次に掲げる事項を審議するものとする。 (1) 教育研究全般に関する事項 (2) 事業推進全般に関する事項 (3) 入学試験及び学生募集に関する事項 (4) その他学部・学科の運営に関する重要事項及び必要と認められる事項

様式第7号イ

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

・横浜市教育委員会との連携・協働に関する協定

相互の信頼関係に基づき密接に連携・協力することにより、教員養成及びその資質・能力の向上に努め、学校教育上の諸課題への対応を図り、もって横浜市の教育の充実・発展に寄与することを目的としており、この連携協定に基づき次項 (2) の学校ボランティア活動を行っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： よこはま教育実践ボランティア（横浜市教育委員会）

連携先との調整方法： 横浜市教育委員会事務局教職員育成課との直接連絡

具体的な内容： 学習支援、遠足補助、運動会補助、宿泊体験補助、部活動支援等

Ⅲ. 教職指導の状況

教職課程に関わる様々なガイダンスや履修指導は、教職センターが中心となり、教務課と連携して行っている。

＜オリエンテーション・介護等体験、教育実習に関わる説明会＞

教職課程の履修を適切に行えるよう教職課程全般にわたる全学的な学生要覧別冊『教職課程・日本語教員養成講座』を作成し、教職課程の履修を希望する学生を支援している。入学時を含めて、年度初めにオリエンテーションを実施するほか、各種説明会を適宜開催するなど、各学年に対応した指導を行っている。

＜履修指導・進路指導＞

教職の履修指導は、各担当教員並びに教職センター、教務課において実施している。日常的な指導並びに前期・後期毎に各学生の教職課程履修状況をチェックし、適宜個別に呼び出すなど、個々の学生に対し手厚い支援を行っている。

また、「履修カルテ」及び日常的な教職指導を通して、目的意識も学修意欲も多様である個々の学生に対する個別的な指導・支援を行っている。

進路指導については随時相談を受け付けており、各自治体や私立学校からの教員募集情報も適宜周知している。

＜教員採用試験対策に関する指導＞

教員採用試験への取組として、教育実習の事前指導に横浜市及び神奈川県教員採用担当官の説明会を組み込み、教職への意識を高めており、教員採用試験にむけて、希望する学生には教科教育の担当講師が個別指導を行っている。

様式第7号ウ

<国際社会学科>（認定課程：中一種社会）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・基本的な教育に関する概念や、子ども・家庭・教員の相互関係について説明できる。 ・近代の教育史や様々な教育思想を理解し、それらと多様な教育の理念とのかかわりや、今日に至るまでの教育の変遷を説明できる。 ・学校教育現場を教育心理学の視点から捉える意義およびその礎となる理論について説明できる。 ・教科に関する科目（日本史・外国史/地理学/法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学）の基礎的内容を理解する。
	後期	・教員の存在意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。 ・今日の学校教育の動向をふまえ、教員に求められる役割や資質能力について説明できる。 ・将来教職に就くに当たって自分の適性を見極め、教職課程で学ぶことをはじめとし、教員になるために必要な学びや経験に積極的に取り組むことができる。 ・社会の変化に伴う教育制度の変化や子どもの生活の変化など、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、指導における課題について理解し、さらには教育改革の動向についても理解を深める。 ・教科に関する科目（日本史・外国史/地理学/法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学）の基礎的内容を理解する。
2年次	前期	・中学校学習指導要領に示された道德教育の目標・内容・方法及び「特別の教科 道德」の目標・内容・指導方法等、学校における道德教育の基礎的理論を概説できる。 ・教科に関する科目（日本史・外国史/地理学/法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学）の基礎的内容を理解する。
	前期集中	・学校における発達障害を含む特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の特性ならびに心身の発達、また支援方法について、グループ・ワークでの成果を含め、基礎的な知識を概説できる。
	後期	・教育課程の意義、教育課程編成、カリキュラム・マネジメントに関わる学習指導要領の基本的事項について理解した上で、教育課程実施上の諸課題を踏まえ、学習等の指導に積極的に取り組む意欲を高める。 ・教科に関する科目（日本史・外国史/地理学/法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学）の基礎的内容を理解する。
3年次	前期	・学校における教育相談の意義および基礎的な理論ならびに学校での心理的支援に有効な構え・技法の概要を説明できる。 ・生徒指導・進路指導の意義と原理の概要を理解した上で、その課題について問題意識を持つことができる。 ・中学校学習指導要領における教科の目的、内容、及び学習評価の考え方を理解することができる。 ・社会科分野について、基礎的・基本的内容を理解し、説明することができる。 ・ニュースの解説や教材研究を通して、社会科分野への関心を持ち、社会的事象に対して積極的に調べるなどして自分なりの考えを持ち、それを授業計画・学習指導案の作成に活用することができる。 ・学習指導案の形式及びそれぞれの項目が意味することを理解し、教材研究から計画・実践・評価までを組み立てることが出来る。 ・教科に関する科目（日本史・外国史/地理学/法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学）の発展的内容を理解する。
	前期集中	・中学校学習指導要領に示された「総合的な学習の時間」の目標・内容・方法など基礎的理論を理解した上で、それぞれの指導計画に基づいた単元指導計画の作成及び授業展開ができる。
	後期	・教科教育の内容と技法の理解、多面的な観点から生徒と積極的に関わろうとする態度の形成など、実際の教育場で教師として指導することができる基本的力量を習得する。 ・学習の基盤となる資質・能力としての言語能力・情報活用能力・問題解決力を育成する教育方法のあり方に関する知識・理解ならびに教材及び情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能と実践の素地を培う。 ・特別活動の目標、内容、特質、役割、具体的活動等について理解した上で、特別活動を担う教員としてのあり方、役割を自覚し、実践力を身につける。 ・教材研究等を通して社会科分野のねらい、内容、授業方法、及び学習評価の考え方についての理解を深め、実践に結びつけることができる。 ・様々な資料から情報を読み取り、得られた情報を教材研究や授業計画・学習指導案の作成に適切に利用するとともに、情報通信技術を効果的に活用した模擬授業を通して、授業に対する実践力を身につける。 ・教科に関する科目（日本史・外国史/地理学/法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学）の発展的内容を理解する。
4年次	前期	・実際の学校現場での教育実践を通して、より有効な教科教育の内容と技法、生徒を指導するためのより洗練された技術、そして生徒とさらに積極的に関わる意欲を高めることで、教師としての力量を培う。
	後期	・教職課程の授業科目の修得、および教育実習等の経験を通して身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されているか確認し、かつ、将来、教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、不足していると思われる知識や技能等を補い、教職生活を円滑にスタートできるように努める。

様式第7号ウ（教諭）

<国際社会学科>（認定課程：中一種社会）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目 及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事 項に関する科目	大学が独自に 設定する科目	施行規則第66条の6 に関する科目	その他教職課 程に関連のあ る科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原理/教育思想	日本史概説A		英語 I s(聞く・話す)	
		教育心理学	環境学入門		フランス語 I (入門)	
			政治学概論			
			国際協力入門			
			哲学A			
	後期	教職入門	日本史概説B		健康・スポーツ論	
		教育社会学	アメリカ史入門		情報リテラシー基礎	
			アジア史入門			
			経済学入門(ミクロ)			
			哲学B			
2年次	前期	道德教育の理論と実践	ヨーロッパ史入門		スポーツ実習	
			現代中国論		日本国憲法	
			国際政治入門			
			社会学概論A			
			国際開発論			
	前期集中	特別支援教育の基礎と方法				
	後期	教育課程論	東アジア研究(北朝鮮)			
			東アジア国際関係史			
			ジェンダーと法			
			社会学概論B			
			政治思想入門			
			現代宗教論			
3年次	前期	生徒・進路指導の理論と方法	人文地理学			
		教育相談	自然地理学			
		社会・地理歴史科教育法 I	世界史概説A			
		社会・公民科教育法 I	開発経済学			
	前期集中	総合的な学習の時間の指導法				
	後期	特別活動	世界史概説B			
		教育の方法・技術(情報通信技術の活用含む)	地誌			
		社会・地理歴史科教育法 II	日本経済論			
		社会・公民科教育法 II				
		教育実習1				
4年次	後期	教職実践演習(中・高)				
	通年	教育実習2				
		教育実習3				

様式第7号ウ

<国際社会学科>(認定課程:高一種地理歴史)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・基本的な教育に関する概念や、子ども・家庭・教員の相互関係について説明できる。 ・近代の教育史や様々な教育思想を理解し、それらと多様な教育の理念とのかかわりや、今日に至るまでの教育の変遷を説明できる。 ・学校教育現場を教育心理学の視点から捉える意義およびその礎となる理論について説明できる。 ・教科に関する科目(日本史/外国史/人文地理学及び自然地理学/地誌)の基礎的内容を理解する。
	後期	・教員の存在意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。 ・今日の学校教育の動向をふまえ、教員に求められる役割や資質能力について説明できる。 ・将来教職に就くにあたって自分の適性を見極め、教職課程で学ぶことをはじめとし、教員になるために必要な学びや経験に積極的に取り組むことができる。 ・社会の変化に伴う教育制度の変化や子どもの生活の変化など、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、指導における課題について理解し、さらには教育改革の動向についても理解を深める。 ・教科に関する科目(日本史/外国史/人文地理学及び自然地理学/地誌)の基礎的内容を理解する。
2年次	前期	・教科に関する科目(日本史/外国史/人文地理学及び自然地理学/地誌)の基礎的内容を理解する。
	前期集中	・学校における発達障害を含む特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の特性ならびに心身の発達、また支援方法について、グループ・ワークでの成果を含め、基礎的な知識を概説できる。
	後期	・教育課程の意義、教育課程編成、カリキュラム・マネジメントに関わる学習指導要領の基本的事項について理解した上で、教育課程実施上の諸課題を踏まえ、学習等の指導に積極的に取り組む意欲を高める。 ・教科に関する科目(日本史/外国史/人文地理学及び自然地理学/地誌)の基礎的内容を理解する。
3年次	前期	・学校における教育相談の意義および基礎的な理論ならびに学校での心理的支援に有効な構え・技法の概要を説明できる。 ・生徒指導・進路指導の意義と原理の概要を理解した上で、その課題について問題意識を持つことができる。 ・高等学校学習指導要領における教科の目的、内容、及び学習評価の考え方を理解することができる。 ・地理的分野、歴史的分野について、基礎的・基本的内容を理解し、説明することができる。 ・ニュースの解説や教材研究を通して、地理的、歴史的分野への関心を持ち、社会的事象に対して積極的に調べるなどして自分なりの考えを持ち、それを授業計画・学習指導案の作成に活用することができる。 ・学習指導案の形式及びそれぞれの項目が意味することを理解し、教材研究から計画・実践・評価までを組み立てることが出来る。 ・教科に関する科目(日本史/外国史/人文地理学及び自然地理学/地誌)の発展的内容を理解する。
	前期集中	・高等学校学習指導要領に示された「総合的な探究の時間」の目標・内容・方法など基礎的理論を理解した上で、それぞれの指導計画に基づいた単元指導計画の作成及び授業展開ができる。
	後期	・教科教育の内容と技法の理解、多面的な観点から生徒と積極的に関わろうとする態度の形成など、実際の教育場で教師として指導することができる基本的力量を習得する。 ・学習の基盤となる資質・能力としての言語能力・情報活用能力・問題解決力を育成する教育方法のあり方に関する知識・理解ならびに教材及び情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能と実践の素地を培う。 ・特別活動の目標、内容、特質、役割、具体的活動等について理解した上で、特別活動を担う教員としてのあり方、役割を自覚し、実践力を身につける。 ・教材研究等を通して地理的分野、歴史的分野のねらい、内容、授業方法、及び学習評価の考え方についての理解を深め、実践に結びつけることができる。 ・様々な資料から情報を読み取り、得られた情報を教材研究や授業計画・学習指導案の作成に適切に利用するとともに、情報通信技術を効果的に活用した模擬授業を通して、授業に対する実践力を身につける。 ・教科に関する科目(日本史/外国史/人文地理学及び自然地理学/地誌)の発展的内容を理解する。
4年次	前期	・実際の学校現場での教育実践を通して、より有効な教科教育の内容と技法、生徒を指導するためのより洗練された技術、そして生徒とさらに積極的に関わる意欲を高めることで、教師としての力量を培う。
	後期	・教職課程の授業科目の修得、および教育実習等の経験を通して身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されているか確認し、かつ、将来、教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、不足していると思われる知識や技能等を補い、教職生活を円滑にスタートできるように努める。

様式第7号ウ（教諭）

<国際社会学科>（認定課程：高一種地理歴史）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目 及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事 項に関する科目	大学が独自に 設定する科目	施行規則第66条の 6に関する科目	その他教職課 程に関連のあ る科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原理/教育思想	日本史概説A		英語 I s(聞く・話す)	
		教育心理学	環境学入門		フランス語 I (入門)	
	後期	教職入門	日本史概説B		健康・スポーツ論	
		教育社会学	アメリカ史入門		情報リテラシー基礎	
			アジア史入門			
2年次	前期		ヨーロッパ史入門		スポーツ実習	
			現代中国論		日本国憲法	
	前期集中	特別支援教育の基礎と方法				
	後期	教育課程論	東アジア研究(北朝鮮)			
			東アジア国際関係史			
3年次	前期	生徒・進路指導の理論と方法	人文地理学			
		教育相談	自然地理学			
		社会・地理歴史科教育法 I	世界史概説A			
	前期集中	総合的な学習の時間の指導法				
	後期	特別活動	世界史概説B			
		教育の方法・技術(情報通信技 術の活用含む)	地誌			
		社会・地理歴史科教育法 II				
		教育実習1				
4年次	後期	教職実践演習(中・高)				
	通年	教育実習2				

様式第7号ウ

<国際社会学科> (認定課程: 高一種公民)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・基本的な教育に関する概念や、子ども・家庭・教員の相互関係について説明できる。 ・近代の教育史や様々な教育思想を理解し、それらと多様な教育の理念とのかかわりや、今日に至るまでの教育の変遷を説明できる。 ・学校教育現場を教育心理学の視点から捉える意義およびその礎となる理論について説明できる。 ・教科に関する科目(法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学、心理学)の基礎的内容を理解する。
	後期	・教員の存在意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。 ・今日の学校教育の動向をふまえ、教員に求められる役割や資質能力について説明できる。 ・将来教職に就くにあたって自分の適性を見極め、教職課程で学ぶことをはじめとし、教員になるために必要な学びや経験に積極的に取り組むことができる。 ・社会の変化に伴う教育制度の変化や子どもの生活の変化など、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、指導における課題について理解し、さらには教育改革の動向についても理解を深める。 ・教科に関する科目(法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学、心理学)の基礎的内容を理解する。
2年次	前期	・教科に関する科目(法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学、心理学)の基礎的内容を理解する。
	前期集中	・学校における発達障害を含む特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の特性ならびに心身の発達、また支援方法について、グループ・ワークでの成果を含め、基礎的な知識を概説できる。
	後期	・教育課程の意義、教育課程編成、カリキュラム・マネジメントに関わる学習指導要領の基本的事項について理解した上で、教育課程実施上の諸課題を踏まえ、学習等の指導に積極的に取り組む意欲を高める。 ・教科に関する科目(法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学、心理学)の基礎的内容を理解する。
3年次	前期	・学校における教育相談の意義および基礎的な理論ならびに学校での心理的支援に有効な構え・技法の概要を説明できる。 ・生徒指導・進路指導の意義と原理の概要を理解した上で、その課題について問題意識を持つことができる。 ・高等学校学習指導要領における教科の目的、内容、及び学習評価の考え方を理解することができる。 ・公民的分野について、基礎的・基本的内容を理解し、説明することができる。 ・ニュースの解説や教材研究を通して、公民的分野への関心を持ち、社会的事象に対して積極的に調べるなどして自分なりの考えを持ち、それを授業計画・学習指導案の作成に活用することができる。 ・学習指導案の形式及びそれぞれの項目が意味することを理解し、教材研究から計画・実践・評価までを組み立てることが出来る。 ・教科に関する科目(法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学、心理学)の発展的内容を理解する。
	前期集中	・高等学校学習指導要領に示された「総合的な探究の時間」の目標・内容・方法など基礎的理論を理解した上で、それぞれの指導計画に基づいた単元指導計画の作成及び授業展開ができる。
	後期	・教科教育の内容と技法の理解、多面的な観点から生徒と積極的に関わろうとする態度の形成など、実際の教育場で教師として指導することができる基本的力量を習得する。 ・学習の基盤となる資質・能力としての言語能力・情報活用能力・問題解決力を育成する教育方法のあり方に関する知識・理解ならびに教材及び情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能と実践の素地を培う。 ・特別活動の目標、内容、特質、役割、具体的活動等について理解した上で、特別活動を担う教員としてのあり方、役割を自覚し、実践力を身につける。 ・教材研究等を通して公民的分野のねらい、内容、授業方法、及び学習評価の考え方についての理解を深め、実践に結びつけることができる。 ・様々な資料から情報を読み取り、得られた情報を教材研究や授業計画・学習指導案の作成に適切に利用するとともに、情報通信技術を効果的に活用した模擬授業を通して、授業に対する実践力を身につける。 ・教科に関する科目(法律学、政治学/社会学、経済学/哲学、倫理学、宗教学、心理学)の発展的内容を理解する。
4年次	前期	・実際の学校現場での教育実践を通して、より有効な教科教育の内容と技法、生徒を指導するためのより洗練された技術、そして生徒とさらに積極的に関わる意欲を高めることで、教師としての力量を培う。
	後期	・教職課程の授業科目の修得、および教育実習等の経験を通して身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されているか確認し、かつ、将来、教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、不足していると思われる知識や技能等を補い、教職生活を円滑にスタートできるように努める。

様式第 7 号ウ（教諭）

<国際社会学科>（認定課程：高一種公民）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原理/教育思想	政治学概論		英語 I s（聞く・話す）	
		教育心理学	国際協力入門		フランス語 I（入門）	
			哲学A			
	後期	教職入門	経済学入門（ミクロ）		健康・スポーツ論	
		教育社会学	哲学B		情報リテラシー基礎	
2年次	前期		国際政治入門		スポーツ実習	
			社会学概論A		日本国憲法	
			国際開発論			
	前期集中	特別支援教育の基礎と方法				
	後期	教育課程論	ジェンダーと法			
			社会学概論B			
			政治思想入門			
			現代宗教論			
3年次	前期	生徒・進路指導の理論と方法	開発経済学			
		教育相談				
		社会・公民科教育法 I				
	前期集中	総合的な学習の時間の指導法				
	後期	特別活動	日本経済論			
		教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）				
		社会・公民科教育法 II				
		教育実習 1				
4年次	後期	教職実践演習（中・高）				
	通年	教育実習 2				

様式第7号ウ

<文化表現学科>(認定課程:中一種国語)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・基本的な教育に関する概念や、子ども・家庭・教員の相互関係について説明できる。 ・近代の教育史や様々な教育思想を理解し、それらと多様な教育の理念とのかかわりや、今日に至るまでの教育の変遷を説明できる。 ・社会の変化に伴う教育制度の変化や子どもの生活の変化など、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、指導における課題について理解し、さらには教育改革の動向についても理解を深める。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の基礎的内容を理解する。
	後期	・教員の存在意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。 ・今日の学校教育の動向をふまえ、教員に求められる役割や資質能力について説明できる。 ・将来教職に就くにあたって自分の適性を見極め、教職課程で学ぶことをはじめとし、教員になるために必要な学びや経験に積極的に取り組むことができる。 ・学校教育現場を教育心理学の視点から捉える意義およびその礎となる理論について説明できる。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の基礎的内容を理解する。
2年次	前期	・教育課程の意義、教育課程編成、カリキュラム・マネジメントに関わる学習指導要領の基本的事項について理解した上で、教育課程実施上の諸課題を踏まえ、学習等の指導に積極的に取り組む意欲を高める。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学/書道)の基礎的内容を理解する。
	後期	・中学校学習指導要領に示された道德教育の目標・内容・方法及び「特別の教科 道德」の目標・内容・指導方法等、学校における道德教育の基礎的理論を概説できる。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学/書道)の基礎的内容を理解する。
	後期集中	・学校における発達障害を含む特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の特性ならびに心身の発達、また支援方法について、グループ・ワークでの成果を含め、基礎的な知識を概説できる。
3年次	前期	・学習の基盤となる資質・能力としての言語能力・情報活用能力・問題解決力を育成する教育方法のあり方に関する知識・理解ならびに教材及び情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能と実践の素地を培う。 ・特別活動の目標、内容、特質、役割、具体的活動等について理解した上で、特別活動を担う教員としてのあり方、役割を自覚し、実践力を身につける。 ・日本語の発生から現在までの日本語の変遷及び国語科教育の変遷を知り、国語科教育の意義を理解できる。 ・中学校学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、国語教育が言語の教育であることを理解した上で教材研究に臨み、それを授業計画・学習指導案の作成に活用することができる。 ・学習指導案の形式及びそれぞれの項目が意味することを理解し、教材研究から計画・実践・評価までを組み立てることが出来る。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の発展的内容を理解する。
	後期	・教科教育の内容と技法の理解、多面的な観点から生徒と積極的に関わろうとする態度の形成など、実際の教育場で教師として指導することができる基本的力量を習得する。 ・学校における教育相談の意義および基礎的な理論ならびに学校での心理的支援に有効な構え・技法の概要を説明できる。 ・生徒指導・進路指導の意義と原理の概要を理解した上で、その課題について問題意識を持つことができる。 ・中学校学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、国語教育が言語の教育であることの認識を持って言語活動(学習活動)の工夫と授業展開を工夫することができる。 ・国語教育は「母語で感じ母語で考える」母語教育であることを認識し、適切に表現し正確に理解し伝え合う力を育成するとはどういうことかを考え、それを教材研究や授業計画・学習指導案の作成に適切に反映させるとともに、情報通信技術を効果的に活用した模擬授業を通して、授業に対する実践力を身につける。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の発展的内容を理解する。
	後期集中	・中学校学習指導要領に示された「総合的な学習の時間」の目標・内容・方法など基礎的理論を理解した上で、それぞれの指導計画に基づいた単元指導計画の作成及び授業展開ができる。
4年次	前期	・実際の学校現場での教育実践を通して、より有効な教科教育の内容と技法、生徒を指導するためのより洗練された技術、そして生徒とさらに積極的に関わる意欲を高めることで、教師としての力量を培う。
	後期	・教職課程の授業科目の修得、および教育実習等の経験を通して身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されているか確認し、かつ、将来、教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、不足していると思われる知識や技能等を補い、教職生活を円滑にスタートできるように努める。

様式第7号ウ（教諭）

<文化表現学科>（認定課程：中一種国語）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目 及び教育の基礎的理解に関する 科目等	教科に関する専門的 事項に関する科目	大学が独自に 設定する科目	施行規則第66条の 6に関する科目	その他教職 課程に関連 のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原理/教育思想	日本語学概論		英語 I s(聞く・話す)	
		教育社会学	漢文学概論		フランス語 I (入門)	
	後期	教職入門	日本近現代文学概論		健康・スポーツ論	
		教育心理学	日本古典文学概論		情報リテラシー基礎	
			文章表現法			
2年次	前期	教育課程論	漢文学演習		スポーツ実習	
			日本語の歴史		日本国憲法	
			書道			
	後期	道德教育の理論と実践	日本近現代文学演習			
			日本古典文学演習			
			文学理論の基礎			
	後期集中	特別支援教育の基礎と方法				
3年次	前期	特別活動	日本語学演習			
		教育の方法・技術(情報通信技術の活用含む)	日本古典文学特講			
		国語科教育法 I	東アジア文学論			
	後期	生徒・進路指導の理論と方法	日本語学特講			
		教育相談	日本近現代文学特講			
		国語科教育法 II				
		教育実習1				
	後期集中	総合的な学習の時間の指導法				
4年次	後期	教職実践演習(中・高)				
	通年	教育実習2				
		教育実習3				

様式第7号ウ

<文化表現学科>(認定課程:高一種国語)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・基本的な教育に関する概念や、子ども・家庭・教員の相互関係について説明できる。 ・近代の教育史や様々な教育思想を理解し、それらと多様な教育の理念とのかかわりや、今日に至るまでの教育の変遷を説明できる。 ・社会の変化に伴う教育制度の変化や子どもの生活の変化など、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、指導における課題について理解し、さらには教育改革の動向についても理解を深める。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の基礎的内容を理解する。
	後期	・教員の存在意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。 ・今日の学校教育の動向をふまえ、教員に求められる役割や資質能力について説明できる。 ・将来教職に就くにあたって自分の適性を見極め、教職課程で学ぶことをはじめとし、教員になるために必要な学びや経験に積極的に取り組むことができる。 ・学校教育現場を教育心理学の視点から捉える意義およびその礎となる理論について説明できる。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の基礎的内容を理解する。
2年次	前期	・教育課程の意義、教育課程編成、カリキュラム・マネジメントに関わる学習指導要領の基本的事項について理解した上で、教育課程実施上の諸課題を踏まえ、学習等の指導に積極的に取り組む意欲を高める。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の基礎的内容を理解する。
	後期	・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の基礎的内容を理解する。
	後期集中	・学校における発達障害を含む特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の特性ならびに心身の発達、また支援方法について、グループ・ワークでの成果を含め、基礎的な知識を概説できる。
3年次	前期	・学習の基盤となる資質・能力としての言語能力・情報活用能力・問題解決力を育成する教育方法のあり方に関する知識・理解ならびに教材及び情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能と実践の素地を培う。 ・特別活動の目標、内容、特質、役割、具体的活動等について理解した上で、特別活動を担う教員としてのあり方、役割を自覚し、実践力を身につける。 ・日本語の発生から現在までの日本語の変遷及び国語科教育の変遷を知り、国語科教育の意義を理解できる。 ・高等学校学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、国語教育が言語の教育であることを理解した上で教材研究に臨み、それを授業計画・学習指導案の作成に活用することができる。 ・学習指導案の形式及びそれぞれの項目が意味することを理解し、教材研究から計画・実践・評価までを組み立てることが出来る。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の発展的内容を理解する。
	後期	・教科教育の内容と技法の理解、多面的な観点から生徒と積極的に関わろうとする態度の形成など、実際の教育現場で教師として指導することができる基本的力量を習得する。 ・学校における教育相談の意義および基礎的な理論ならびに学校での心理的支援に有効な構え・技法の概要を説明できる。 ・生徒指導・進路指導の意義と原理の概要を理解した上で、その課題について問題意識を持つことができる。 ・高等学校学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、国語教育が言語の教育であることを認識を持って言語活動(学習活動)の工夫と授業展開を工夫することができる。 ・国語教育は「母語で感じ母語で考える」母語教育であることを認識し、適切に表現し正確に理解し伝え合う力を育成するとはどういうことかを考え、それを教材研究や授業計画・学習指導案の作成に適切に反映させるとともに、情報通信技術を効果的に活用した模擬授業を通して、授業に対する実践力を身につける。 ・教科に関する科目(国語学/国文学/漢文学)の発展的内容を理解する。
	後期集中	・高等学校学習指導要領に示された「総合的な探究の時間」の目標・内容・方法など基礎的理論を理解した上で、それぞれの指導計画に基づいた単元指導計画の作成及び授業展開ができる。
4年次	前期	・実際の学校現場での教育実践を通して、より有効な教科教育の内容と技法、生徒を指導するためのより洗練された技術、そして生徒とさらに積極的に関わる意欲を高めることで、教師としての力量を培う。
	後期	・教職課程の授業科目の修得、および教育実習等の経験を通して身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されているか確認し、かつ、将来、教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、不足していると思われる知識や技能等を補い、教職生活を円滑にスタートできるように努める。

様式第 7 号ウ（教諭）
<文化表現学科>（認定課程：高一種国語）
(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1 年次	前期	教育原理/教育思想	日本語学概論		英語 I s(聞く・話す)	
		教育社会学	漢文学概論		フランス語 I (入門)	
	後期	教職入門	日本近現代文学概論		健康・スポーツ論	
		教育心理学	日本古典文学概論		情報リテラシー基礎	
			文章表現法			
2 年次	前期	教育課程論	漢文学演習		スポーツ実習	
			日本語の歴史		日本国憲法	
	後期		日本近現代文学演習			
			日本古典文学演習			
			文学理論の基礎			
	後期集中	特別支援教育の基礎と方法				
3 年次	前期	特別活動	日本語学演習			
		教育の方法・技術(情報通信技術の活用含む)	日本古典文学特講			
		国語科教育法 I	東アジア文学論			
	後期	生徒・進路指導の理論と方法	日本語学特講			
		教育相談	日本近現代文学特講			
		国語科教育法 II				
		教育実習 1				
	後期集中	総合的な学習の時間の指導法				
4 年次	後期	教職実践演習(中・高)				
	通年	教育実習 2				

様式第7号ウ

<文化表現学科>(認定課程:中一種英語)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・基本的な教育に関する概念や、子ども・家庭・教員の相互関係について説明できる。 ・近代の教育史や様々な教育思想を理解し、それらと多様な教育の理念とのかかわりや、今日に至るまでの教育の変遷を説明できる。 ・学校教育現場を教育心理学の視点から捉える意義およびその礎となる理論について説明できる。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の基礎的内容を理解する。
	後期	・教員の存在意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。 ・今日の学校教育の動向をふまえ、教員に求められる役割や資質能力について説明できる。 ・将来教職に就くに当たって自分の適性を見極め、教職課程で学ぶことをはじめとし、教員になるために必要な学びや経験に積極的に取り組むことができる。 ・社会の変化に伴う教育制度の変化や子どもの生活の変化など、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、指導における課題について理解し、さらには教育改革の動向についても理解を深める。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の基礎的内容を理解する。
2年次	前期	・中学校学習指導要領に示された道德教育の目標・内容・方法及び「特別の教科 道德」の目標・内容・指導方法等、学校における道德教育の基礎的理論を概説できる。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の基礎的内容を理解する。
	前期集中	・学校における発達障害を含む特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の特性ならびに心身の発達、また支援方法について、グループ・ワークでの成果を含め、基礎的な知識を概説できる。
	後期	・教育課程の意義、教育課程編成、カリキュラム・マネジメントに関わる学習指導要領の基本的事項について理解した上で、教育課程実施上の諸課題を踏まえ、学習等の指導に積極的に取り組む意欲を高める。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の基礎的内容を理解する。
3年次	前期	・学校における教育相談の意義および基礎的な理論ならびに学校での心理的支援に有効な構え・技法の概要を説明できる。 ・生徒指導・進路指導の意義と原理の概要を理解した上で、その課題について問題意識を持つことができる。 ・中学校学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解し指導に生かすことができる。 ・学習到達目標及び年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画について理解し、学習指導案の作成に活用することができる。 ・学習指導案の形式及びそれぞれの項目が意味することを理解し、教材研究から計画・実践・評価までを組み立てることができる。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の発展的内容を理解する。
	前期集中	・中学校学習指導要領に示された「総合的な学習の時間」の目標・内容・方法など基礎的理論を理解した上で、それぞれの指導計画に基づいた単元指導計画の作成及び授業展開ができる。
	後期	・教科教育の内容と技法の理解、多面的な観点から生徒と積極的に関わろうとする態度の形成など、実際の教育場で教師として指導することができる基本的力量を習得する。 ・学習の基盤となる資質・能力としての言語能力・情報活用能力・問題解決力を育成する教育方法のあり方に関する知識・理解ならびに教材及び情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能と実践の素地を培う。 ・特別活動の目標、内容、特質、役割、具体的活動等について理解した上で、特別活動を担う教員としてのあり方、役割を自覚し、実践力を身につける。 ・小学校外国語活動・外国語の学習指導要領並びに教材・教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解し、学習指導案の作成に生かし、指導することができる。 ・英語による授業展開やALT等とのチームティーチングの方法を理解し、学習指導案に位置づけるとともに、情報通信技術を効果的に活用した模擬授業を通して、授業に対する実践力を身につける。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の発展的内容を理解する。
4年次	前期	・実際の学校現場での教育実践を通して、より有効な教科教育の内容と技法、生徒を指導するためのより洗練された技術、そして生徒とさらに積極的に関わる意欲を高めることで、教師としての力量を培う。
	後期	・教職課程の授業科目の修得、および教育実習等の経験を通して身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されているか確認し、かつ、将来、教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、不足していると思われる知識や技能等を補い、教職生活を円滑にスタートできるように努める。

様式第7号ウ（教諭）

<文化表現学科>（認定課程：中一種英語）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目 及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に 設定する科目	施行規則第66条の6 に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原理/教育思想	英語学研究入門		英語 I s(聞く・話す)	
		教育心理学	アメリカ文学史		フランス語 I (入門)	
			イギリス研究入門			
	後期	教職入門	イギリス文学史		健康・スポーツ論	
		教育社会学	英語の歴史		情報リテラシー基礎	
2年次	前期	道德教育の理論と実践	Academic Skills		スポーツ実習	
			第二言語習得論(英語)		日本国憲法	
	前期集中	特別支援教育の基礎と方法				
	後期	教育課程論	イギリス文学			
			Thought and Expression in English			
			英語学			
3年次	前期	生徒・進路指導の理論と方法	英語テキスト分析			
		教育相談	Advanced English Skills			
		英語科教育法 I				
	前期集中	総合的な学習の時間の指導法				
	後期	特別活動	アメリカ文学			
		教育の方法・技術(情報通信技術の活用含む)	欧米芸術と文学			
		英語科教育法 II				
		教育実習1				
4年次	後期	教職実践演習(中・高)				
	通年	教育実習2				
		教育実習3				

様式第7号ウ

<文化表現学科>(認定課程:高一種英語)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・基本的な教育に関する概念や、子ども・家庭・教員の相互関係について説明できる。 ・近代の教育史や様々な教育思想を理解し、それらと多様な教育の理念とのかかわりや、今日に至るまでの教育の変遷を説明できる。 ・学校教育現場を教育心理学の視点から捉える意義およびその礎となる理論について説明できる。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の基礎的内容を理解する。
	後期	・教員の存在意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。 ・今日の学校教育の動向をふまえ、教員に求められる役割や資質能力について説明できる。 ・将来教職に就くにあたって自分の適性を見極め、教職課程で学ぶことをはじめとし、教員になるために必要な学びや経験に積極的に取り組むことができる。 ・社会の変化に伴う教育制度の変化や子どもの生活の変化など、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、指導における課題について理解し、さらには教育改革の動向についても理解を深める。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の基礎的内容を理解する。
2年次	前期	・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の基礎的内容を理解する。
	前期集中	・学校における発達障害を含む特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の特性ならびに心身の発達、また支援方法について、グループ・ワークでの成果を含め、基礎的な知識を概説できる。
	後期	・教育課程の意義、教育課程編成、カリキュラム・マネジメントに関わる学習指導要領の基本的事項について理解した上で、教育課程実施上の諸課題を踏まえ、学習等の指導に積極的に取り組む意欲を高める。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の基礎的内容を理解する。
3年次	前期	・学校における教育相談の意義および基礎的な理論ならびに学校での心理的支援に有効な構え・技法の概要を説明できる。 ・生徒指導・進路指導の意義と原理の概要を理解した上で、その課題について問題意識を持つことができる。 ・高等学校学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解し指導に生かすことができる。 ・学習到達目標及び年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画について理解し、学習指導案の作成に活用することができる。 ・学習指導案の形式及びそれぞれの項目が意味することを理解し、教材研究から計画・実践・評価までを組み立てることが出来る。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の発展的内容を理解する。
	前期集中	・高等学校学習指導要領に示された「総合的な探究の時間」の目標・内容・方法など基礎的理論を理解した上で、それぞれの指導計画に基づいた単元指導計画の作成及び授業展開ができる。
	後期	・教科教育の内容と技法の理解、多面的な観点から生徒と積極的に関わろうとする態度の形成など、実際の教育場で教師として指導することができる基本的力量を習得する。 ・学習の基盤となる資質・能力としての言語能力・情報活用能力・問題解決力を育成する教育方法のあり方に関する知識・理解ならびに教材及び情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能と実践の素地を培う。 ・特別活動の目標、内容、特質、役割、具体的活動等について理解した上で、特別活動を担う教員としてのあり方、役割を自覚し、実践力を身につける。 ・小学校外国語活動・外国語の学習指導要領並びに教材・教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解し、学習指導案の作成に生かし、指導することができる。 ・英語による授業展開やALT等とのチームティーチングの方法を理解し、学習指導案に位置づけるとともに、情報通信技術を効果的に活用した模擬授業を通して、授業に対する実践力を身につける。 ・教科に関する科目(英語学/英語文学/英語コミュニケーション/異文化理解)の発展的内容を理解する。
4年次	前期	・実際の学校現場での教育実践を通して、より有効な教科教育の内容と技法、生徒を指導するためのより洗練された技術、そして生徒とさらに積極的に関わる意欲を高めることで、教師としての力量を培う。
	後期	・教職課程の授業科目の修得、および教育実習等の経験を通して身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されているか確認し、かつ、将来、教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、不足していると思われる知識や技能等を補い、教職生活を円滑にスタートできるように努める。

様式第7号ウ（教諭）

＜文化表現学科＞（認定課程：高一種英語）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目 及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事 項に関する科目	大学が独自に 設定する科目	施行規則第66条の6 に関する科目	その他教職課 程に関連のあ る科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原理/教育思想	英語学研究入門		英語 I s(聞く・話す)	
		教育心理学	アメリカ文学史		フランス語 I (入門)	
			イギリス研究入門			
	後期	教職入門	イギリス文学史		健康・スポーツ論	
		教育社会学	英語の歴史		情報リテラシー基礎	
2年次	前期		Academic Skills		スポーツ実習	
			第二言語習得論(英語)		日本国憲法	
	前期集中	特別支援教育の基礎と方法				
	後期	教育課程論	イギリス文学			
			Thought and Expression in English			
3年次	前期	生徒・進路指導の理論と方法	英語テキスト分析			
		教育相談	Advanced English Skills			
		英語科教育法 I				
	前期集中	総合的な学習の時間の指導法				
	後期	特別活動	アメリカ文学			
		教育の方法・技術(情報通信技 術の活用含む)	欧米芸術と文学			
		英語科教育法 II				
		教育実習1				
4年次	後期	教職実践演習(中・高)				
	通年	教育実習2				